

麦栽培は、水稻収穫直後から始まっています。

収量・品質向上の“4ポイント”の徹底を！

令和4年10月
東讃農業改良普及センター
東讃農業改良普及協議会

ポイント1 播種前の排水対策



①溝掘機による「明きょ」の設置



②落水口への確実な連結

①播種前の早い段階で溝掘機や管理機を用いて排水溝(明きょ)を設置し、雨に備えましょう。

②排水溝は、ほ場周辺や3~5m間隔で設置し、落水口に連結、播種前の事前浅耕と合わせて実施し、効果を高めましょう。

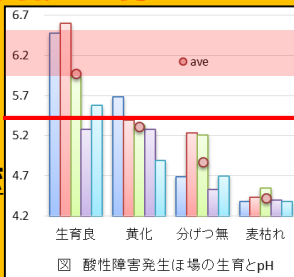
❗できていないと…
播種の遅れ、土壤水分が高すぎて「ねり播き」による出芽数不足、生育不良、除草剤効果の低下等をまねく恐れがあります。

ポイント2 土づくり対策

麦類の適正な土壤pHは“6.0~6.5”！！
土づくり資材の施用で、酸度矯正を行いましょ。

○土壤pHが過度に酸性化(5.5以下)すると、酸性障害で、生育不良や品質低下、ひどい場合は枯死します。

○連作や酸性障害が発生するほ場では、苦土石灰等の土づくり資材を必ず施用しましょ。



土壤pH
←最適域：
6.0~6.5
←最低限度：
5.5
←土壤PHが下がる(酸性化)につれて生育不良大

資材名	散布量	散布時期
苦土石灰	60~100kg/10a	耕起前または耕起時

※pHを0.5上げるためには苦土石灰を約100kg/10a施用する必要があります。

ポイント3 雑草対策

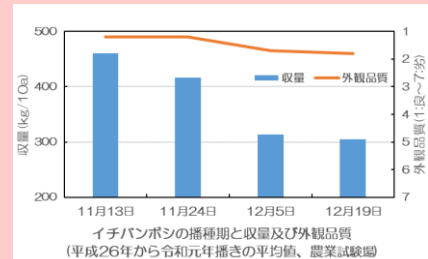
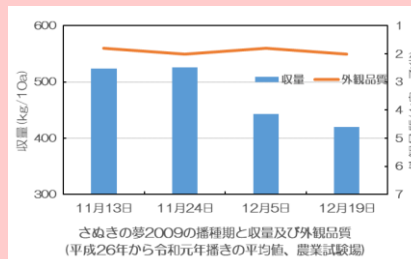
除草剤の選定や組み合わせ、適期散布でしつこい雑草を防除しましょ。

特に古草、オオススメ/カタビラ、カラスムギ等が多いほ場では、播種前に非選択性除草剤を散布し、播種後に初期除草剤(土壌処理剤)を散布しましょ！



不十分な場合…、
麦類の生育不良、収穫物への雑草種子混入で収量や品質の低下につながる恐れがあります。

ポイント4 適期播種



適期播種で収量・品質が最高に！

小麦、はだか麦とも

播種早限 → 11月10日

播種適期 → 11月15~25日

余裕をもって、
丁寧に播種作業をしましょ。



早播きリスク：
①凍霜害の危険
②枯れ熟れの助長

遅播きリスク：
①収量低下
②雨害による品質低下